

THE FRONTIER TIMES

Report

① 文部科学省 IBDP視察のため来校

高校2年生の希望者を対象として、4月から始まった国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP)。生徒たちは、海外の大学進学や国内の難関大学進学を目指して英語による学習に熱心に取り組んでいます。国内の一条校では現在まで12校、東海3県では名古屋国際中学校・高等学校だけが認定を受けているという特別なプログラムです。

去る5月20日には、文部科学省から2名の方が、本校の国際バカロレア・ディプロマプログラムの様子を視察に来校されました。いらっしゃったのは、文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室の松本秀彰室長と荒牧真三乃さんのお二人です。当日は、ジョージ校長から本校の教育理念や歴史、主な教育活動や国際バカロレア・ディプロマプログラム認定までのステップなどを説明し、理科室で行われていたChemistryの授業を見学していただきました。お二人ともIBDP校の視察は初めてということで、認定に至るまでのさまざまなハードルの高さに驚かれています。また、ドラフトチャンパーやエ



▲Chemistryの授業を参観する文科省のお二人(写真中央)

マーゼンシーシャワー、薬品庫などIBDPのために整備した理科室の様子も見ていただきました。Chemistryは、分子構造の仕組みの学習で、実際に模型を作りながら立体的に学ぶという授業でした。IBDPの生徒たち(高校2年生)は、教員と英語でやりとりをしながら、いくつかのグループに分かれて積極的に学習していました。一昨年の香川県議会、昨年の埼玉県議会に続いて今回は文部科学省の来校と、先進の国際教育を推進する本校に向けられている視線を感じています。使命感を持った中等教育機関としてますます教育活動を充実させていきます。■

② 灘高校と模擬国連合同練習を実施



▲練習会の様子(発言を求めるときは国名のカードを掲げます)

6月27日(土)に、模擬国連の校内練習会を行いました。模擬国連とは、1923年にアメリカのハーバード大学で始まった、現代の社会問題を理解し解決方法を探る取組です。練習会では、『児童労働 (Child Labor)』を課題として設定し、各国の大使として児童労働と自国の関わりを周りに伝え、児童労働と自国がどのように関わっていくのかについての政策を打ち出しました。今回は本校生徒9名に加えて、兵庫県灘高校より4名の学生が参加してくれました。昨年度の全国高校模擬国連大会に出場歴のある上級生が議長や進行役を務め、先進国・途上国を織り交ぜた11カ国で実施しました。

模擬国連に取組むにあたり重要な事は、担当国の現状を的確に把握し、他国との協調を図ることです。理念において、児童労働を全廃するべきだという主張は正しいかもしれませ



▲練習会に参加した灘高校と本校の生徒たち

HOT! NEWS

① トビタテ! 留学JAPAN 日本代表に

平成27年度官民協働海外留学支援制度

～トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム～に、奥村 海くん(国際教養科2年)が派遣留学生として選ばれる!



平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」に基づき、創設され、「世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材」の育成という観点から、留学生を支援しています。「アカデミック」「スポーツ・芸術」「プロフェッショナル」「国際ボランティア」の4分野のうち、奥村海くんは、「スポーツ・芸術」の分野で選出されました。留学タイトルは、「ジム・ホーリー トレーニング」で、一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会の推薦状をもらって、7月4日から8月30日までロサンゼルスにて留学をしています。留学前の意気込みを次のように語りました。

『私が今回このプログラムにチャレンジしようと思ったのは、モトクロス本場のアメリカで自分のスキルアップをし、他国の選手たちと刺激あってモトクロスだけでなく文化の違いや言葉の壁

も乗り越えて一人の人間としてもレベルアップをしたいと思ったからです。私は困難を感じた時はいつも「世界でのレースはもっと高く、甘いものではない。こんなところでくじけていたら世界に挑戦する時に通用しない!」と思っています。今回の留学で、いろいろな困難に立ち向かい乗り越えることで、人として大きく成長をし、また日本へ戻ってきます! (奥村 海) ■



▲トビタテ留学JAPANプロジェクトディレクターの船橋力さんと

② キャリア甲子園2015 優勝し日本一に!

キャリア甲子園は、企業や政府が提示したテーマに対して、ビジネスモデルを提案する取組です。中高一貫6年生の菊澤萌さんは、全国高校模擬国連で得た人脈を活かし、兵庫県の灘高等学校および六甲高等学校の生徒とチームを結成し、参加しました。書類審査、地区ブロックプレゼンを通過し、460チーム中ベスト10まで勝ち進み、8月10日に東京で行われた決勝で見事に優勝を果たしました。



▲キャリア甲子園2015に出場した菊澤萌さん

◎ TIMES 設置配布協力先

広報紙「THE FRONTIER TIMES」は下記の組織および施設にて配布しています。部数に限りがありますので、すでに配布が終了している場合はご容赦ください。
名古屋国際中学校・高等学校事務局前/名古屋商科大学 地域活性化研究センター/名古屋商科大学 中央情報センター/独立行政法人国際協力機構中部国際センター/認定NPO法人JCAN

発行 名古屋国際中学校
NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
所在地 〒466-0841 名古屋市長和区広路本町1-16
発行月 年間4回 (6月/9月/12月/3月)

制作 学校法人栗本学園
名古屋国際中学校・高等学校
学内広報チーム
デザイン cluch on cluch Co., Ltd.
企画協力 株式会社 イーブレイン

広報紙「THE FRONTIER TIMES」に関するご意見・ご感想は frontiertimes@nhs.ed.jp までお送りください。本紙に掲載されている記事、画像など全てのコンテンツの著作権は名古屋国際中学校・高等学校に帰属します。私的使用以外の目的で複写・複製することはできません。



THE FRONTIER TIMES

[ザ・フロンティア・タイムズ]



▲京都大学主催 探究成果ポスター発表会で説明する岩田くん(右)と松本くん(左)

[The Way Forward]

NHS is pleased to announce to all members of our community our commitment to creating a combined medium-term (2016-2021) and long-term (2021-2025) strategic plan. We tentatively call this plan Good to Great: The Way Forward. The final name, of course, along with all of the details of the plan, will emerge only after robust conversations among our stakeholders.

The vision, goals, themes and action plans that we agree upon in the course of developing our strategic plan will direct the school's growth and development over the next ten years. We seek to underscore our commitment to continuous improvement and to maximize the delivery of our mission and fundamental values through close consultation with all of our constituents. This plan will guide us as we undertake to become a truly great school.

In the coming months, we will hold regular open meetings to share ideas and draft our plan. We will refer to these as community meetings to underscore

their essentially democratic nature. To get the conversations started, we would like to explain our strategy, as we currently conceive it, in about forty words.

Our intent is to provide a first-class international education that meets or exceeds world standards, to cultivate in our students international mindedness and leadership skills and to create a unique curriculum and ethos aligned with the overarching goal of education for sustainable development.

Themes that will emerge in the course of our conversations with stakeholders will, of course, range over many topics, including assurance of learning; effective integration of technology; provision of adequate facilities and resources; recruitment and retention of an outstanding faculty; and cultivation of students who are inquirers, lifelong learners, team players and effective contributors to their communities.

We initially propose five key concepts to generate strategic thinking—small is beautiful, the only school

of its kind, quality first, global vision and key alliances. The meanings of these phrases will become “thicker” and more useful in the course of our conversations.

We will invite the members of our Super Global High Associate School team, the IB team, alumni, parents, members of the Student Council and members of the Board of Trustees to participate in our community meetings and help us articulate our plan.

Schools are learning organizations. They must respond in a timely manner to demands that they cultivate in students the skills, dispositions and values required for success in a rapidly evolving world. Schools cannot merely do things the way they always have and imagine that they are still relevant. The members of a school community must summon the courage, the honesty and the willingness to replace what does not work in their school with what can and must. Constant improvement and experimentation are imperative. That is why we invite all of you to contribute to Good to Great: The Way Forward. ■

✿ 京都大学主催探究成果ポスター発表会

SGHアソシエイトとしてのコーヒー製作活動と、その起点となった昨年度のフェアトレード(以下、FT)活動について、京都大学主催の探究成果ポスター発表会にて実践報告を行いました。京大生や全国のSGH校やSSH校相手に本校の取組を効果的に説明すべく、中高一貫6年生の岩田昌也くんと普通科進学1年生の松本竜くんの2名が事前準備を重ね、当日は活発な質疑応答を展開しました。「FT商品の開発販売だけでは、生産者へいくらかお金が渡るのか不明瞭ではないか」「FTの認知度パーセンテージはいくらか」など、深みのある指摘を多く受ける中で、自分たちに不足しているデータ分析や、より説得力を持つ説明方法を考える機会になりました。京都大学理事の北野正雄先生の全体講評では、地域性とグローバルな視点を繋げることの必要性や、データ集積・分析に基づく仮説設定の重要性についての指摘がありました。ここでの学びを活かして、商品開発を深化させましょう。■